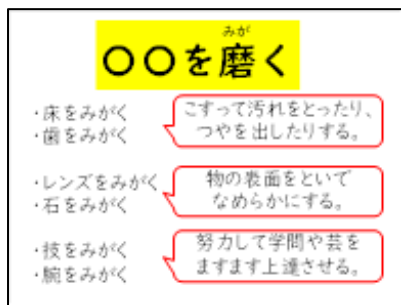


令和3年度2学期終業式 式辞

皆さん、明けましておめでとうございます。冬休みはどうでしたか。家族のみなさんと一緒に元気に過ごすことができたことでしょうか。今日から3学期が始まります。6年生は卒業に向けて、それ以外の学年は進級に向けて、あと一頑張りするときです。今の学年でやってきたことを振り返り、できるようになったことは何か、もうすこしががんばらないといけないことは何かを自分で見つけて、取組を始めてほしいと思います。



さて、3学期最初のお話は「磨く」です。皆さんは、「○○を磨く」と聞いて、何を思い浮かべますか。

「床を磨く」「歯を磨く」辞書で意味を調べると、これは「こすって汚れをとったり、つやを出したりする」とあります。ではこれはどうでしょう。

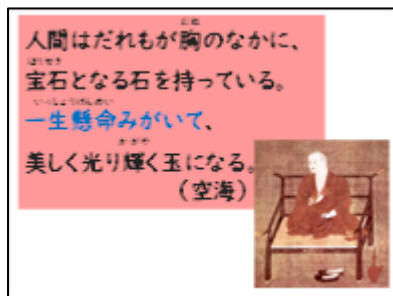
「レンズを磨く」「石を磨く」これは「物の表面を研いでなめらかにする」ことです。さらに「技を磨く」「腕を磨く」という言い方もあります。これは「努力して学問や芸をますます上達させる」ことを言います。今日はこの

中で特に2つ目の「石をみがく」ことについて話してみたいと思います。



この写真を見てください。これは「緑柱石」という石です。これは「翡翠」という宝石の原石（もとになる石）です。この石を、やすりや研磨剤、磨く道具を使い、時間をかけて表面を削り磨いていくと光り輝く美しい宝石になります。日本でも古くから宝石として加工されてきました。石を美しい宝石にまで磨くには、大変な労力と時間が必要です。少し磨いたくらいでは、美しくなりません。また表面を軽くこすっただけでも駄目です。コツコツと少しずつ時間と手をかけることで美しい宝石にすることができるそうです。

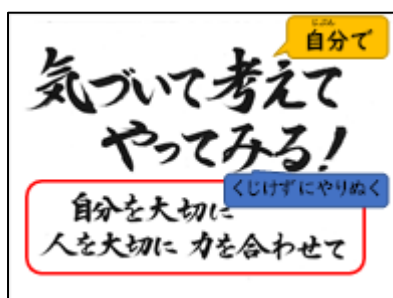
この話を聞いたときに、私は「人が成長する」ということも同じだなと思いました。そう思って、調べてみるとこんな言葉に出会いました。平安時代のお坊さん「空海」という人の言葉です。（空海は6年生なら知っていますね。歴史の教科書にも出てきます。）



「人間はだれもが胸のなかに、宝石となる石をもっている。一生懸命磨いて、美しく光り輝く玉になる」

この言葉で素敵だなと思ったのは、「だれでも胸の中に宝石をもっている」というところです。つまり、わたしにもあなたにも、隣に座っているお友達にも、みんな「素敵なところ」「得意なこと」があるということです。皆さんは自分のよいところや得意なことが言えますか。すぐに言えなくても大丈夫。今ははっきりわからなくても、自分を一生懸命磨いていくことでいつ

か必ず見えてくるからです。ただ、先ほどの宝石の原石を磨くと同じで、「磨く努力」をしなければ、輝く石とはならない—苦勞して、時間をかけて、時には苦しい思いや投げ出したい気持ちを我慢しながら、自分自身の力であきらめずに続けることが必要です。自分を磨くことができるのは、「自分」しかいません。小学生の皆さんは、まだまだどんな色のどんな輝きの宝石になるかわかりません。ここにいる101名の皆さんが、どんな風に輝くのか、私はとても楽しみです。



自分を光らせるために3学期も加計小学校の目標を心において、過ごしてほしいと思います。みんなで力を合わせて、一人一人が輝く3学期にしていきましょう。

令和4年1月7日

加計小学校長 萩原英子